

モニタリングレポート(令和5年度)

施設名	ベルホーム				
施設所在地	鈴鹿市江島町3447番地の5				
指定管理者名	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会				
評価担当課	障がい福祉課	問合せ先	059-382-7626		
施設の運営状況	(確認方法)月次報告, 事業報告書				
生活介護利用登録者 (年度末)	43名	生活介護利用延べ利用者数	6,112名	平均利用者数	23.9名
日中一時利用登録者 (年度末)	6名	日中一時利用延べ利用者数	22名		
事業収支	(確認方法)事業報告書				
項目	計画値(単位:円)	実績値(単位:円)	計画比(単位:円)		
指定管理料	30,092,000	30,092,000	0		
介護保険事業収入	0	0	0		
障害福祉サービス等事業収入	86,784,000	87,075,279	291,279		
その他	358,000	432,841	74,841		
事業活動収入計	117,234,000	117,600,120	366,120		
人件費(給与・法定福利費等)	99,271,000	99,189,739	▲ 81,261		
事業費	3,417,000	3,373,259	▲ 43,741		
諸謝金	145,000	145,000	0		
保健衛生費	92,000	93,156	1,156		
教養娯楽費	149,000	147,794	▲ 1,206		
消耗器具備品費	987,000	982,952	▲ 4,048		
車両費	2,039,000	1,999,737	▲ 39,263		
雑支出	5,000	4,620	▲ 380		
事務費	17,290,000	17,137,546	▲ 152,454		
福利厚生費・旅費・研修費	545,000	544,154	▲ 846		
事務消耗品費・印刷製本費	255,000	246,688	▲ 8,312		
水道光熱費	2,876,000	2,742,369	▲ 133,631		
修繕費	284,000	245,850	▲ 38,150		
通信運搬費	447,000	439,998	▲ 7,002		
業務委託費	7,603,000	7,629,757	26,757		
手数料	1,072,000	1,070,584	▲ 1,416		
保険料	584,000	583,060	▲ 940		
賃借料	2,691,000	2,703,122	12,122		
租税公課	3,000	2,024	▲ 976		
保守料	930,000	929,940	▲ 60		
負担金	16,000	16,000	0		
事業活動支出計	119,994,000	119,716,544	▲ 277,456		
事業活動収支	▲ 2,760,000	▲ 2,116,424	643,576		
施設整備等による収支	▲ 167,000	▲ 166,540	460		
その他の活動による収支	▲ 6,657,000	▲ 6,580,322	76,678		
当期資金収支	▲ 9,584,000	▲ 8,863,286	720,714		

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書 (収支計算書)	△	本年度収支はマイナスとなっているが、前年度までの資金残高により調整できており問題は無い。
	年度事業報告書 (財産目録)	○	資産が負債を上回っている。 (差引純資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			○適・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても優秀な内容である。			
定例報告会の頻度と内容の評価			○適・不適
月1回の定例報告を受けている。 課題等については、随時協議を行っている。			
緊急時の対応評価			○適・不適
緊急的な報告を要する案件はなかった。 法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。 また、基本的な衛生対策も適切に実施している。			
指定管理者の総括評価			○適・不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、児童発達支援センターとして、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
今後も利用希望者の増加が予想されるため、利用希望者のニーズに答えられる体制を構築していく必要がある。また、さつき棟の空調機、けやき棟の屋根や外壁が老朽化しており、改修工事にあたっては障害特性に応じた配慮が必要である。			
施設の方向性			
利用者からは安定した施設の運営が求められており、施設の継続は必須である。 引き続き、利用者の満足度を向上させる運営を行っていく。			